

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	鹿児島
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大崎町立持留小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1		1	1	0	5	9
児童数	3	9	5	9	11	9	0	46	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、生きる力をそなえた子どもの育成  
～基礎学力の確実な定着を図る指導法の研究を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

3・4・5・6学年 国語科・算数科  
本校では、学力の基盤を「読み」「書き」「計算」などととらえ、その中心となる国語科・算数科を選択した。また、この2教科は、児童個々の理解度や習熟度に大きな差が表れやすいため基礎・基本の確実な定着を図ることが必要であると考えた。

(2) 年次ごとの計画

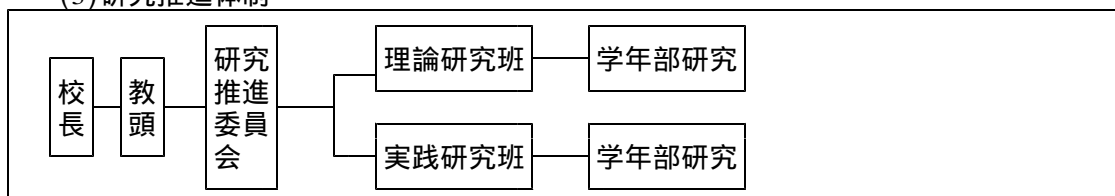
平成14年度	<p>テーマ 自ら学び、生きる力をそなえた子どもの育成 ～基礎学力の確実な定着を図る指導法の研究を通して～</p> <p>仮説 仮説1 基礎・基本を明確にし、個に応じた指導と評価を生かすなど学習過程を工夫した授業を展開するならば、主体的に学ぶ子どもの育成につながるのではないか。</p> <p>仮説2 一人ひとりの実態を的確に捉え課題を明確にし、補充的・発展的な学習の場や繰り返し学習の場の設定・充実を図るならば、基礎学力が定着するのではないか。</p> <p>仮説3 家庭との連携を密にし、家庭における学習の仕方の提示、保護者による見届けなど家庭学習の習慣化を図るならば、基礎学力が定着するのではないか。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>1 指導方法及び指導体制の工夫</p> <p>(1) チームティーチング(TT)指導による学習活動の展開</p> <p>(2) 習熟度別学習の基本的な考え方の共通理解</p> <p>(3) 評価規準の見直し</p> <p>2 基礎・基本の定着の場の設定と工夫</p> <p>(1) 全校チームティーチングの共通理解と実践</p> <p>(2) 「基礎・基本の定着の時間」の設定</p> <p>(3) 音読についての共通理解と実践</p> <p>(4) 個人プロフィールの作成</p> <p>3 学業指導の充実</p> <p>(1) 学習の姿勢・学習用具とその整理・発表話型の共通実践</p> <p>4 家庭と連携した基礎学力定着の工夫</p> <p>(1) 家庭学習の手引きの作成と実践</p> <p>(2) 学習の記録チェック表の作成と実践</p>
	<p>テーマ 自ら学び、生きる力をそなえた子どもの育成</p>

平成 15 年度	～基礎学力の確実な定着を図る指導法の研究を通して～
	<p>仮説</p> <p><b>仮説1</b> 基礎・基本を明確にし、習熟の程度に応じた指導と評価を生かすなど学習過程を工夫した授業を展開するならば、主体的に学ぶ子どもの育成につながるのではないか。</p> <p><b>仮説2</b> 一人ひとりの実態を的確に捉え課題を明確にし、補充的・発展的な学習の場や繰り返し学習の場の設定・充実を図るならば、基礎学力が定着するのではないか。</p> <p><b>仮説3</b> 家庭との連携を密にし、家庭における学習の仕方の提示、保護者による見届けなど家庭学習の習慣化を図るならば、基礎学力が定着するのではないか。</p> <p>研究内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 指導方法及び指導体制の工夫       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 習熟の程度に応じた指導やチームティーチング（TT）指導による学習活動の展開</li> <li>(2) 習熟の程度に応じた学習における指導体制や指導形態の工夫</li> <li>(3) 複式学級における指導法の研究</li> <li>(4) 評価規準・基準の作成と活用</li> </ol> </li> <li>2 基礎・基本の定着の場の設定と工夫       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全校チームティーチングの指導体制や指導形態の工夫</li> <li>(2) 「基礎学力の定着の時間」の生かし方の研究</li> <li>(3) 個人プロフィールの活用と課題の把握</li> <li>(4) 子どもの意識調査及び学力検査等の分析</li> </ol> </li> <li>3 学業指導の充実       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習の姿勢・学習用具とその整理・発表話型の共通実践</li> </ol> </li> <li>4 家庭と連携した基礎学力定着の工夫       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 家庭学習の手引き・学習の記録チェック表の工夫改善</li> <li>(2) 自由参観週間の設定</li> <li>(3) 家庭学習モニターの発足</li> </ol> </li> </ol>

平成 16 年度	テーマ 自ら学び、生きる力をそなえた子どもの育成 ～基礎学力の確実な定着を図る指導法の研究を通して～
	<p>仮説</p> <p><b>仮説1</b> 基礎・基本を明確にし、習熟の程度に応じた指導と評価を生かすなど学習過程を工夫した授業を展開するならば、主体的に学ぶ子どもの育成につながるのではないか。</p> <p><b>仮説2</b> 一人ひとりの実態を的確に捉え課題を明確にし、補充的・発展的な学習の場や繰り返し学習の場の設定・充実を図るならば、基礎学力が定着するのではないか。</p> <p><b>仮説3</b> 家庭との連携を密にし、家庭における学習の仕方の提示、保護者による見届けなど家庭学習の習慣化を図るならば、基礎学力が定着するのではないか。</p> <p>研究内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 指導方法及び指導体制の工夫       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) チームティーチング（TT）指導による学習活動の工夫改善</li> <li>(2) 効果的な習熟の程度に応じた学習の工夫改善</li> <li>(3) 少人数学級における指導方法や指導形態の工夫</li> <li>(4) 評価規準・評価基準の見直し</li> <li>(5) 幼・小・中一貫した学習指導の確立</li> </ol> </li> <li>2 基礎・基本の定着の場の設定と工夫       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全校チームティーチング指導の充実</li> <li>(2) 「基礎・基本の定着の時間」の充実</li> </ol> </li> </ol>

- (3) 音読指導の工夫改善
- (4) 個人プロフィール活用の充実
- 3 学業指導の充実
  - (1) 学習の姿勢・学習用具とその整理・発表話型の共通実践
- 4 家庭と連携した基礎学力定着の工夫
  - (1) 家庭学習の手引き・学習の記録チェック表の活用
  - (2) 自由参観週間の工夫
  - (3) 家庭学習モニターの活用

### (3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

- ・ 習熟の程度に応じた学習やチームティーチング等の指導態勢や学習集団の編成を工夫したことで、一人ひとりにきめ細かな指導がより可能になり、子どもたちに意欲的な取組が見られるようになった。
- ・ 基礎学力定着の時間の設定や月2回の全校チームティーチングで繰り返し学習を行ったことで、学力が向上してきた。
- ・ N R T 学力検査における学校全体の通過率と全国の通過率との比較

国語科	本校	全国	差
話すこと・聞くこと	77.1	73.6	+ 3.5
書くこと	70.7	60.3	+ 10.4
読むこと	61.7	56.7	+ 5.0
言語事項	78.6	67.0	+ 11.6
総合	72.0	64.4	+ 7.6

習熟の程度に応じた指導やチームティーチング指導を行ったことで一人ひとりにきめ細かな指導ができ、すべての領域で全国の通過率を上回り、基礎学力の確実な定着が図られた。

算数科	本校	全国	差
数と計算	78.0	72.0	+ 6.0
量と測定	72.9	65.1	+ 7.8
図形	82.4	71.7	+ 10.7
数量関係	72.6	65.1	+ 7.5
総合	76.5	68.5	+ 8.0

基礎学力定着のための特設時間等を設定して基礎的・基本的なことの学習を継続して行ったことでより確実に学力の定着を図ることができた。

家庭学習の手引きや家庭学習モニター等を活用して家庭との連携を図ったことで、家庭学習が習慣

(H15年4月下旬実施)

化し、保護者の協力が得られるようになった。

#### 2. 今後の課題

- ・ 習熟の程度に応じた学習を行う際の T1・T2 の打合せの時間の確保や連携の必要がある。
- ・ 単元・一単位時間の評価規準・基準の見直しや自己評価・相互評価の内容の検討をする必要がある。
- ・ 「基礎学力の定着の時間」で扱っている教材を学年の系統性のあるものに開発して、その変容を捉えて定着を図っていく必要がある。
- ・ 現在の個人プロフィールの内容の再検討や個別指導に生かす場を設定して効果的に活用する必要がある。
- ・ 家庭との連携を密にしていくために、家庭学習モニターの生かし方や授業参観週間の工夫等をする必要がある。
- ・ 幼・小・中一貫した取組になるように授業参観や連絡等、今後、近隣の幼・小・中との連携を深めていく工夫や必要がある。
- ・ 子どもたちの家庭での過ごし方に対して、タイムスケジュール表等を作成して一人ひとりにきめ細かな指導をする必要である。(生活パターンの習慣化等)

学力等把握のための学校としての取組

- 評価による実態把握
- ・子どもによる自己評価の実施
  - ・評価規準・基準を基にした教師による客観的評価の実施
  - ・個人プロフィールの活用
- 定期的な学力検査の実施
- ・C R T学力検査 年1回（1月下旬 全学年対象）
  - ・N R T学力検査 年1回（4月下旬 全学年対象）
- 基礎・基本の定着の時間の変容把握
- ・業間活動（月～金までの10分間（8：45～8：55） 全学年対象）
  - ・全校T T活動（毎月2回 4年・5年・6年対象）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 研究会の実施  
 中間発表会  
 日 時：平成16年1月27日（火）13：20～17：00  
 場 所：大崎町立持留小学校  
 参加者：137名  
 テーマ：自ら学び、生きる力をそなえた子どもの育成  
 ～基礎学力の確実な定着を図る指導法の研究を通して～  
 対 象：県内各小・中学校  
 内 容：フロンティアスクールとしての中間発表会を開催し、国語・算数の授業を通じた研修と今後の方向づけをした。
2. 町学力向上推進協議会・推進委員会等での実践発表  
 町学力向上推進協議会：6月12日（木） 1月27日（月）  
 町学力向上推進委員会：6月 3日（火） 8月20日（水）  
                                   10月17日（金） 1月27日（火）  
                                   2月26日（木）
3. フロンティアティーチャーの活動  
 大崎町教育振興懇談会での研究発表 2月18日（水）
4. 他校への普及活動  
 学校参観  
 大崎町教頭会 10名 6月20日（金）  
 有明町立原田小学校 3名 1月29日（木）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校	
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級	
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T Tによる指導 その他	
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作 理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有	無	